

『ジオルジオアルマーニ』というブランドが 男のスタイルにもたらしたもの

文・中野香織

優れたフアッションデザイナーというのは、服をデザインするというよりもむしろ、時代が求める人間像をデザインする力のある人のことです。その意味で、この半世紀ほどの間で歴史に名を刻むことになるであろうメンズフアッションのデザイナーは、ジオルジオ・アルマーニ、エディ・スリマン、そしてトム・ブラウンでしょうか。

このなかではアルマーニがもっとも傑出した存在なのですが、それは彼が男性フアッションのみならず、女性フアッションにまで多大な影響を及ぼしているからです。女性の管理職やトップが活躍し始めた1980年代、彼は女性に優雅な貫禄と威厳を与えるスーツを作り、彼のスーツによって自信を得た女性たちはいつそう高いステータジに上りました。

セクシーさと威厳を両立させる絶妙なレディスウエアは、1970年代にメンズウエアにおいて成功させた手法を応用したものでした。41歳でジオルジオ・アルマーニ社を設立したアルマーニは、まずメンズスーツに革命を起こします。変化することはないと思われていた鎧よろいのようなスーツの構造を解体し、柔らかな素材を使い、芯地を大胆に省略したアンコンストラクテッド（駁手な構造物ではない）

い）ジャケットを世に出します。映画『アメリカン・ジゴロ』（1980）に衣装を提供しますが、映画の冒頭では、静謐なグレイジュのグラデーショナルのスイツやシャツやタイが、それだけでラグジュリーな光景を生み出しています。まだ無名だったアルマーニは、社会現象になったこの映画によって世界的に名を知られる存在になり、ジゴロを演じたリチャード・ギアは一躍、80年代のセックス・シンボルとなります。ギアが着こなす高級スイツというイメージをまとったアルマーニのメンズウエアを通して、80年代の男性は、それまでほとんど封じられていた官能的な快楽の感覚を表現することを楽しむ始めたのです。

そのように男女双方の装い方に対する態度を変え、時代のムードを変えていったというだけでも偉大なのですが、アルマーニを別格の高みに押し上げているのは、むしろビジネスの側面です。彼は1990年代に起きたラグジュリーブランドの熾烈な買収競争に巻き込まれることなく、デザイナーにして最高経営責任者というステータスを、長きにわたり守り抜いています。しかもジオルジオアルマーニ社は洋服だけで8ラインを展開するばかりか、実に幅広い分野をカバーす

るトータルライフスタイルブランドでもあります。

そんな彼のキャリアは、最愛のパートナーを失った絶望が転機となっています。セルジオ・ガレオッティはジオルジオよりも10歳年下の建築家で、アルマーニとともにブランドを立ち上げ、経営を一手に引き受けてきましたが、1985年に41歳の若さで他界しました。公私にわたる支えを失ったアルマーニはしばらく引きこもりますが、その後、全業務を自ら掌握し、デザイナーにして経営者という二つの顔を兼備して再出発します。クリエイティブな才能を、デザインばかりではなく戦略や財務の分野にも発揮し、次々と独創的な宣伝戦略を展開していくのです。

冒頭の『アメリカン・ジゴロ』にしても、映画に衣装を提供するという宣伝手法を誰よりも先んじてとった広報戦略で、その延長に、アカデミー賞授賞式に出席するスターに衣装を着てもらおうという「セレブリティ・エンドースメント（有名人名お墨付き）」の宣伝手法が続きます。さらに、サッカー選手がスタイルアイコンになりうることにいち早く注目し、他のブランドに先駆けてサッカー選手にスイツを作った慧眼にも驚かされます。

時代を見抜き、行動を起こす俊敏さの例は枚挙にいとまがないのですが、特筆すべきは慈善活動です。また「社会貢献」が声高にうたわれていなかった時代からアルマーニは、医療・教育機関への支援を中心に、多岐にわたる慈善活動を精力的に行っていました。スマートな慈善の流儀が彼を尊敬に値する大物へと押し上げています。大物となっても保守に回ることなく、

ここ10年ほどのあいだでも、ラグランズリープのジャケットやテーパード・パンツなど時代感覚を巧みにすくいとるデザインで挑戦を続けています。

浮沈の激しい世界において40年間、先頭を走り続けるアルマーニの成功の秘訣は、ストイックなまでの完璧主義にあり、仕事の喜びを味わうためなら孤独という犠牲を払うことも覚悟している、というアルマーニのことは胸が熱くなります。男性服に革命を起こし、男性の「態度」を変えてきたばかりではなく、絶望に突き落とされても自分自身と闘って運命を切り開き、フアッションの領域を超える幅広い分野の人々と密な関係を築き、社会に貢献することで高い尊敬を受けているジオルジオ・アルマーニ。仕事や人生に向き合う彼のスタイルそのものが、なによりも、多くの男性にとつてインスピレーションの源となるのではないのでしょうか。

Profile

服飾史家・エッセイスト。東京大学大学院修士、英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て、文筆家になる。2008年に明治大学特任教授に就任。監訳を手がけた書籍「シャネル、革命の秘密」（リサ・チエニー著／デイスカヴァー・トゥエンティワン）が好評発売中。公式HP（<http://www.kaori-nakano.com/>）

PI137/ソフトな生地と仕立てが、まさに『ジオルジオ アルマーニ』ならではのジャケット。東京で働く男性をイメージした最新のモデルだ。ジャケット¥410,000・シャツ¥110,000・パンツ¥170,000（ジオルジオ アルマーニ ジャパン）

左ページ/ストレッチのナイロン生地と白×黒の立体的なストライプに仕立てたジャケットは、『ジオルジオ アルマーニ』の革新的な素材使いを体現したものだ。これもPI137と同型の最新コレクションのものだ。ジャケット¥280,000・ニット¥150,000・パンツ¥78,000（ジオルジオ アルマーニ ジャパン）